

### 3. 経営成績

#### (1) 平成16年9月中間期の概況

当中間期における世界経済は、米国や中国をはじめとするアジア諸国の景気の拡大が続き、欧州経済も緩やかではありますが回復基調を示しました。一方、日本経済も、輸出や民間設備投資が拡大するとともに、個人消費も回復傾向を示すなど、堅調に推移しました。

このような状況の中で、当社グループといたしましては、プリント配線板部門では、中国広州第二工場（MEIKO ELECTRONICS (GUANGZHOU NANSHA) CO.,LTD.）の垂直立ち上げを行い、本年6月より本格稼働させ、受注の拡大に対応してまいりました。一方、国内におきましては、最先端高技術製品の開発、技術の確立に努めるとともに、高多層基板の事業化を進めてまいりました。そして、販売部門におきましては、新たに国内に2営業所を設置し、営業体制を強化するとともに、国内営業拠点と広州、上海、米国サンノゼの海外営業拠点を連携させたグローバルな販売ネットワークの強化に努めてまいりました。

また、電子機器部門におきましては、中国広州第二工場内に基板実装ラインを導入し、中国における基板実装事業を本格化いたしました。

その結果、当中間連結売上高は196億5千8百万円（前年同期比49.6%増）となり、65億2千万円の増収となりました。また、損益面は、連結営業利益が24億4千6百万円（前年同期比61.9%増）と9億3千5百万円の増益、連結経常利益が24億5千万円（前年同期比185.0%増）と15億9千万円の増益、中間連結純利益は18億8千6百万円（前年同期比255.7%増）と13億5千6百万円の増益となりました。

プリント配線板部門は、薄型テレビやデジタルカメラなどデジタル家電分野の伸長が続くとともに、車載品他全般的に受注が好調に推移した結果、売上高は157億4千9百万円（前年同期比46.2%増）、営業利益は19億2千1百万円（前年同期比53.6%増）と前年同期と比較し6億7千万円増となり、大幅な増収増益となりました。

設計・原版部門は、プリント配線板部門の受注拡大に牽引され設計関連が好調に推移した結果、売上高は15億7千3百万円（前年同期比10.6%増）、営業利益は4億4千1百万円（前年同期比5.8%増）と前年同期と比較し2千3百万円増となり、増収増益となりました。

電子機器部門におきましては、中国での基板実装事業が本格化したことやハンダ付ロボットの受注が好調であったことから、売上高は23億3千4百万円（前年同期比146.9%増）、営業利益は8千3百万円（前年同期は1億5千7百万円の損失）と前年同期と比較し2億4千万円増となり、大幅な増収増益となりました。

#### （所在地別セグメントの概況）

所在地別セグメントの概況につきましては、いずれの地域においても大幅な増収増益となりました。前期に本格稼働した中国広州工場は生産量の増加もあって、当期に入って収益が大幅に増加し、また、国内工場においても、生産量の増加と、固定費等の削減の効果もあり、特に量産工場において損益が大幅に改善されました。売上高につきましては、本邦が売上高133億9千5百万円（前年同期比31.5%増）、アジア地域が売上高62億6千2百万円（前年同期比112.0%増）、営業損益につきましては、本邦が12億5千7百万円と、前年同期と比較し6億1千4百万円の増益、アジア地域が10億8

千6百万円と、前年同期と比較し3億6千9百万円の増益となりました。

なお、当中間期の単独業績につきましては、次の通りであります。

売上高	127億5千6百万円	(前年同期比22.7%増)
営業利益	7億8千5百万円	(前年同期比61.2%増)
経常利益	8億5千4百万円	(前年同期比66.5%増)
中間純利益	4億円	(前年同期比35.6%増)

## (2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、営業活動により21億5千3百万円増加し、投資活動により59億6千7百万円減少し、財務活動により53億4千9百万円増加し、この結果、前連結会計年度と比べて21億3千5百万円増加し、39億5千8百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及びたな卸資産の増加があったものの、税金等調整前中間純利益及び減価償却費等の増加等により、前中間連結会計期間と比べて3億5千8百万円の収入増加となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、中国広州工場へのプリント配線板製造ラインの新設等による有形固定資産の取得等により、前中間連結会計期間と比べて支出が42億6千万円増加し、59億6千7百万円となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等による長期借入金の増加及び株式の発行による収入があったため前中間会計期間と比べて資金が51億3千8百万円の収入増加となり、53億4千9百万円の収入となりました。

## (3) 平成17年3月期の見通し

今後の見通しといたしましては、景気は引き続き回復基調で推移すると思われませんが、原油価格や原材料価格のアップ、また為替変動など先行きはまだまだ不透明な状況にあります。

このような環境の中で、当社グループといたしましては、中国広州第二工場設備を拡張し、受注増に対応していくとともに、国内では高付加価値新規事業に設備投資を行い、業容と収益の拡大に努めてまいります。

当社グループの現時点での通期業績見通しは、次の通りであります。

1) 連結業績	売上高	400億円	(前期比	37.0%増)
---------	-----	-------	------	---------

經常利益	4.4 億円	(前期比	93.5%増)
当期純利益	2.9 億円	(前期比	76.7%増)

2) 単独業績	売上高	24.6 億円	(前期比	9.6%増)
	經常利益	1.6 億5千万円	(前期比	37.9%増)
	当期純利益	8 億円	(前期比	26.9%増)